



角 笛 会 会 報

ホームページ: http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~tsuno_hp/index.shtml

発行所

日本大学生物資源科学部
獣医学科角笛会
〒252-0880
藤沢市亀井野1866
0466-84-3624



巻頭のご挨拶

角笛会会長 中川 秀 樹 (昭和40年卒)

日頃より角笛会の活動に御協力と御支援を賜っております会員各位に厚く御礼と感謝を申し上げます。

本年3月11日に発生した東日本大震災は未曾有の津波により多くの人命が奪われ、東北沿岸の多数の市町村が壊滅いたしました。加えて福島第一原子力

発電所の破壊により周囲35kmに及ぶ地域が放射能汚染のため居住できない状態になっております。

被災されました岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県各支部の会員の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

周囲5km範囲は立ち入りができないため、8月現在、野生化した牛、豚、犬、猫が多数生存しています。家畜は飼い主の了解のもと安楽殺が決定していますが、未だ手付かずの状態であり、犬と猫に関しては定期的に飼料をボランティアが置くと同時に捕獲保護に努めている状況です。この状況を改善するために多くのボランティア獣医師が登録をしていますが、行政対応の立ち遅れから、未だに現地活動ができない先生たちが忸怩たる思いで指示を待っている状況と聞いております。

角笛会では7月3日に開催いたしました総会に於いて義援募金を行い、御芳志と本会の義援を合わせて30万円を日本獣医師会動物救護活動支援義援金口座へ送付いたしました。募金に御協力頂きました各位に厚く御礼申し上げます。

本年度も事業計画通り、準会員である獣医学科在校生支援として、新入生歓迎会、スポーツフェスタ助成、国家試験会場でのサポート、卒業生には成績優秀者表彰、卒業記念品の贈呈を行うと共に経済的困窮学生支援のために資金の積み立てを行い、加えてホームページの充実と情報管理に努めてまいりました。是非、機会を作り閲覧の程お願い申し上げます。

経済的困窮学生支援につきましては幸いに応募者が今年度まで無かったことから、次年度は基金積み立てを休止して、今後の動向を踏まえることといたしました。

本年度も全国各支部の要請に対して教員を派遣して母校の近況を伝え、講演を行い、本部への要望、意見も賜り大学と同窓生の懇親と情報提供を図り、絆を深める活動を実施いたしました。連携を頂きました各支部の御協力御支援に感謝を申し上げます。

日本大学同窓会の目的は校友の絆です。各支部におかれましては一層の組織拡充を図って頂くと共に、校友各位におかれましては、引き続きまして母校の発展と角笛会の隆盛に一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。



ご 挨 拶

獣医学科主任 野上 貞 雄 (昭和49年卒)

会長の中川秀樹先生を始め、角笛会の先生方には日頃より、獣医学科の学生教育、研究活動にご支援ご協力を賜り誠に有難く、厚くお礼を申し上げます。

また、この度の震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますと共に、動物たちを含む不幸な

状況が速やかに解消され、一日も早く復興することを心から祈念申し上げます。

震災の関係で、3月、4月の学内行事にも中止、延期などの影響がございましたが、まず当学科は本年3月に141名の卒業生を送り出しました。4月には142 (男61、女81) 名の新入生を迎え、2年次142 (男65、女77) 名、3年次141 (男71、女70) 名、4年次142 (男69、女73) 名、5年次149 (男84、女65) 名、6年次137 (男68、女69) 名、計853名の学生が現在在籍しております。さらに、五味浩司准教授 (獣医解剖学研究室)、小熊圭祐助手 (獣医伝染病学研究室)、佐藤 豪助手 (獣医微生物学研究室)、齋藤光芳助手 (獣医薬理学研究室)、入江彩香実習助手 (学科学務室) の5名の先生方が4月に着任し、教育の充実、発展が大いに期待されるところであります。

獣医学科を取り巻く環境は急速に変化しており、獣医学教育に関して、本年3月には、51科目、約1,700項目の獣医学教育モデル・コア・カリキュラムが公表されました。また、獣医学教育の推進と教育の質保証システムに関連して、臨床の見学型実習から「参加型実習」への転換と問題点、獣医学共通テキストの刊行、獣医学共用試験の実施、第三者評価システムの構築、臨床獣医学教育・獣医公衆衛生学教育の国際評価、獣医学教育システムおよび

施設の国際評価、動物看護師養成教育の現況とそれに求められるもの、私立獣医系5大学における連携教育プログラムなどについて、精力的な検討が現在行われています。

本学科といたしましては、いろいろな制約の中、情報収集と内外への説明に努め、改善し、受験生から選ばれ続ける獣医学教育の提供を目指し、最大限の努力をしていく所存でございます。

終わりに、この度、佐藤常男前学科主任の後任を拝命し、獣医学科の益々の改善、充実を目指してまいりたいと考えております。角笛会の皆様には一層のご支援、ご協力をお願い申し上げますと共にご健勝を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

平成23年度 角笛会総会開催

事務局長 渋谷 久

平成23年7月3日(日)、日本大学生物資源科学部において平成23年度角笛会総会及び日本大学獣医学会が開催されました。中川秀樹会長より挨拶があり、土屋久議長(昭和47年卒)の進行で審議が行われました。平成22年度の事業活動として行った宮崎県口蹄疫被害に対する援助の報告がなされ、日本獣医師会会長と宮崎県獣医師会会長からのお礼状が紹介されました。平成23年度の事業計画では東日本大震災獣医師動物救援募金について審議され、事業活動として承認されました。角笛会の発展に貢献した功労者として中田寛次氏(岩手県)、笠木伯男氏(埼玉県)、森田 一氏(埼玉県)、佐藤忠敬氏(山梨県)、両角吉三氏(長野県)、佐々木和夫氏(新潟県)、志賀逸郎氏(新潟県)、田口忠男氏(新潟県)、金崎進一氏(高知県)、竹崎 誠氏(高知県)、甲斐 聡氏(宮崎県)、後藤光男氏(宮崎県)、佐藤順一氏(大分県)の13名に賞状と記念品が授与されました。また日本大学動物病院の獣医臨床技術の向上と臨床獣医学研究の活性化を目的としたANMEC支援基金研究助成は、大学院生の飯田玄德氏が授賞しました。総会后、食堂棟3階にて開催された懇親会には他学科同僚校友会の来賓、角笛会校友、大学教員そして学部生(準会員)など128名が参加されました。にぎやかに談笑するうちに時間が流れ、盛会裏に終了しました。



功労者の授与式



懇親会の様子

総会資料

平成22年度 一般会計収支決算報告書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Rows include 1. 支部会費, 2. 準会員費, 3. 学部校友会交付金, 4. 雑収入, 5. 前年度繰越額, and 収入合計(A).

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Rows include 1. 経常費, (1) 会合費, (2) 交際費, (3) 旅費交通費, (4) 通信運搬費, (5) 事務局運営費, 2. 会報費, 3. 名簿管理費, 4. 準会員支援費, 5. 褒賞費, 6. 学舎補助費, 7. 補助費, 8. 組織拡充費, 9. 特別会計I, 10. 特別会計II, 11. 特別会計III, 12. 予備費, and 支出合計(B).

平成22年度次期繰越収支差額 (C) = (A) - (B) 824,101 円

平成22年度 懇親会費収支決算報告書

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Rows include 親観会参加費, 準会員参加費, and 収入合計.

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Row includes 懇親会費.

平成22年度収支差額 △ 7,000 円

収支差額は一般会計(準会員支援費)より補填

平成22年度 特別会計Ⅰ収支決算報告書【名簿会計】

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Rows include 1. 名簿作成繰入金, 2. 雑収入, 3. 前年度繰越額, and 収入合計(A).

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Rows include 1. 名簿作成積立金, 2. 雑支出, and 支出合計(B).

平成22年度次期繰越収支差額 (C) = (A) - (B) 3,249,359 円

平成22年度 特別会計Ⅱ収支決算報告書【将来事業資金】

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Rows include 1. 将来事業繰入金, 2. ANMEC研究助成金, 3. 雑収入, 4. 繰越額, and 収入合計(A).

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Rows include 1. ANMEC研究助成費, 2. 将来事業基金, 3. 予備費, and 支出合計(B).

平成22年度次期繰越収支差額 (C) = (A) - (B) 2,845,253 円

平成22年度 特別会計Ⅲ収支決算報告書【支援基金】

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Rows include 1. 角笛会支援基金, 2. 雑収入, 3. 繰越額, and 収入合計(A).

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Rows include 1. 角笛会支援基金, and 支出合計(B).

平成22年度次期繰越収支差額 (C) = (A) - (B) 1,000,000 円

平成23年度 一般会計予算(案)

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

収入の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 支部会員費	1,300,000	1,600,000	△ 300,000	1300名×@1,000
2. 准会員費	2,500,000	2,500,000	0	校友会本部より
3. 学部校友会交付金	200,000	200,000	0	学部より
4. 雑収入	5,899	10,432	△ 4,533	預金利息等
5. 前年度繰越額	824,101	2,089,568	△ 1,265,467	
収入合計	4,830,000	6,400,000	△ 1,570,000	

支出の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 経常費	1,820,000	2,160,000	△ 340,000	
(1) 会合費	50,000	200,000	△ 150,000	会議等
(2) 交際費	300,000	300,000	0	支部総会等祝儀
(3) 旅費交通費	920,000	700,000	220,000	支部総会等旅費
(4) 通信運搬費	150,000	200,000	△ 50,000	通信
(5) 事務局運営費	400,000	760,000	△ 360,000	給与、ソフト等
2. 会報費	250,000	300,000	△ 50,000	会報27号
3. 名簿管理費	230,000	300,000	△ 70,000	業務委託等
4. 准会員支援費	800,000	700,000	100,000	新入生・卒業生記念品、懇親会招待など
5. 褒賞費	200,000	300,000	△ 100,000	幼劣賞・角笛会会長賞・特別賞
6. 学会補助費	200,000	200,000	0	第49回日本大学獣医学学会
7. 補助費	130,000	130,000	0	第10回日本大学獣医系同窓・校友会
8. 組織拡充費	300,000	300,000	0	ホームページ管理等
9. 特別会計Ⅰ	0	300,000	△ 300,000	名簿作成繰入金
10. 特別会計Ⅱ	500,000	800,000	△ 300,000	将来事業繰入金, ANMEC助成金
11. 特別会計Ⅲ	0	500,000	△ 500,000	角笛会支援基金
12. 予備費	400,000	410,000	△ 10,000	
支出合計	4,830,000	6,400,000	△ 1,570,000	

特別会計について

- I: 名簿管理費は別に計上しており、また名簿作成に必要な積立金は確保されたため、今年度は計上しない。
- II: 過去2年間、角笛会支援基金の申請がなく、積立金が確保されたため、今年度は計上しない。

平成23年度 特別会計Ⅰ予算【名簿会計】(案)

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

収入の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 名簿作成繰入金	0	300,000	△ 300,000	一般会計より
2. 雑収入	641	1,369	△ 728	預金利息等
3. 繰越額	3,249,359	2,948,631	300,728	
収入予算合計	3,250,000	3,250,000	0	

支出の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 名簿作成積立金	3,250,000	3,250,000	0	
2. 雑支出	0	0	0	
支出予算合計	3,250,000	3,250,000	0	

平成23年度 特別会計Ⅱ予算【将来事業資金】(案)

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

収入の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 将来事業積立金	200,000	500,000	△ 300,000	一般会計より
2. ANMEC研究助成金	300,000	300,000	0	一般会計より
3. 雑収入	4,747	507	4,240	預金利息等
4. 繰越額	2,845,253	2,544,493	300,760	支援基金分を特別会計Ⅲへ
収入予算合計	3,350,000	3,348,000	5,000	

支出の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 将来事業積立金	2,945,000	2,945,000	0	次回決算及び記念誌作成の為の積立
2. ANMEC研究助成金	300,000	300,000	0	
3. 予備費	105,000	100,000	5,000	
支出合計	3,350,000	3,345,000	5,000	

平成23年度 特別会計Ⅲ予算【支援基金】(案)

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

収入の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 角笛会支援基金	0	500,000	△ 500,000	
2. 雑収入	0	0	0	
3. 繰越額	1,000,000	500,000	500,000	
収入予算合計	1,000,000	1,000,000	0	

支出の部 (単位:円)				
科目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 角笛会支援基金	1,000,000	1,000,000	0	
支出合計	1,000,000	1,000,000	0	

第49回 日本大学獣医学学会開催

第49回日本大学獣医学学会が下記の通り開催されました。動物病院の症例を中心とした一般講演や小動物臨床現場で役立つ教育講演などの充実した学会内容は、多くの方からご好評を頂きました。

学 会 長：日本大学獣医学学会 津曲 茂久

担当学会長：直井 昌之

日 時：平成23年7月3日(日) 10:00~15:30

会 場：日本大学生物資源科学部

<教育講演>

「循環器疾患について考える」 座長：津曲 茂久

1. 中山智宏 (獣医放射線学研究室教授) 「循環器疾患を画像で診る」
2. 山野茂樹 (獣医内科学研究室研究員) 「心腎連関 - 心臓から腎臓へ - 」
3. 水野 祐 (獣医内科学研究室研究員) 「ピモベンダンの最新情報」
4. 上地正実 (獣医内科学研究室教授) 「心臓病の内科と外科治療」

<一般講演> (口頭発表)

座長：手島健次

- ・ 上部消化管内視鏡検査で診断した浅田棘口吸虫症の犬の1例 (岡西広樹、阪本裕美、林幸太郎、山谷吉樹、北川勝人、大場茂夫、佐野忠士、伊藤大介、松本淳、野上貞雄、賀川由美子、亘敏広)
- ・ 軟性内視鏡を用いた犬の凍結精液による単回子宮内人工授精 (麻生拓也、林幸太郎、森田莉彩、大滝忠利、津曲茂久)

座長：亘 敏広

- ・ 犬および猫における前縦隔腫瘍の外科的切除術の治療成績 (駒崎瀬利、浅野和之、飯田玄德、石垣久美子、関真美子、手島健次)
- ・ 抗がん剤の体腔内投与により長期生存が得られている中皮腫の犬の1例 (西村力也、浅野和之、駒崎瀬利、寺崎絵里、青木ひろみ、大橋慎也、石垣久美子、関真美子、手島健次、山谷吉樹)

座長：中山智宏

- ・ 神経症状を呈した先天性凝固因子欠損症の犬の3例 (青木ひろみ、浅井陽介、佐藤恵一、福永恵太、伊藤大介、枝村一弥、丸山治彦、亘敏広)



- ・低血圧モデル犬を用いた塩酸エフェドリン持続点滴による循環動態の変化 (手島健次、布川智範、飯田玄德、関真美子、石垣久美子、枝村一弥、浅野和之)

座長：伊藤大介

- ・椎間板腔の狭小化判定による椎間板ヘルニアの診断感度と特異度
 - ミニチュア・ダックスフント134症例におけるCTを用いた検討 - (桑田香苗、吉田雅隆、張安莉、三浦由佳、押田智枝、枝村一弥、北川勝人、石川智恵子、久楽賢治、坂大智洋、高橋朋子、中山智宏)

動物病院だより

平成23年度日本大学動物病院 (ANMEC) 便り

動物病院長 津曲 茂久



昨年の10月1日から田中茂男前病院長の後任として病院長に就任しましたが、早いもので1年が経過しようとしております。就任以来心掛けてきたことは危機管理対策でした。動物病院が湘南キャンパスに移転して16年が経過しましたが、この間学部当局のご理解の下、同僚大学に負けないようなハード面の整備とスタッフの充実に邁進してきたお陰で、日本大学動物病院の評価は国内トップレベルとなりました。その一方で、運営的なソフト面の充実はどうしても後手になった感があります。病院規模が小さい時には家族経営的な運営で十分でしたが、現在の様な大規模組織になりますと、組織のシ

ステム化や新たな運営方式の導入が避けて通れません。そこで、今年度から病院運営を役割分担するために各種委員会を新たに立ち上げ、責任者を決めました。これまで病院長に報告されるアクシデント事例は極めて稀なのですが、報告の中には重大な運営的な問題を含んでいることがあります。そこで、報告される事例は氷山の一角であるとの認識で、日常的に発生している小さな問題点や課題を常時把握、対処することにしました。具体的には人の大学病院や大規模病院で採用されているクレームリストやインシデント・アクシデント報告書を作り、逐次報告された内容を医療安全委員会で伝達、周知することにしました。また、臨床教員は勿論のこと、スタッフ全員の意識改革を図るために、2カ月に1回程度のFD/SD講習会を開始しました。この講習会は、診療スタッフ、事務スタッフを対象としてクライアントや社会の要望に十分に答えられることを目的として実施しております。尚、この講習会は獣医事審議会における資格停止処分者への研修プログラムに農林水産省から指定されており、毎回受け入れております。

現在、動物病院の診療・業務に携わっているスタッフは臨床教員20人、非常勤講師4人、有給研修医27人、支援獣医師4人、事務職員6人、動物看護師4人の計65人です。他に、週に1度研修に来る無給研修医が57名所属しております。従って、獣医学科5年生がローテーション教育のために動物病院に出入りする時期には、少なくとも150人以上が病院内に存在することになり、拡張した病院でも手狭な状況になっております。

動物病院が社会的にも大きな期待を持たれるにつれ、診療以外の来院者も毎年増加しております。他大学からの獣医学生は勿論のこと、小学生、中学生、高校生、専門学校生、卒業生、1日研修希望者、一般人など今年の7月～10月の4カ月間だけでも200名以上に達しております。

動物病院開設から継続的に実施しているANMECセミナーは182回を数えます。毎月1回月曜日に6時15分から開催しており、臨床獣医師や5、6年生の学生を対象として、新しい臨床情報を提供しております。最近では他大学の講師にも講演を依頼することが多くなり、尚一層の充実を図っております。開催案内を希望される方はメイリングリストで配信しますので、是非、動物病院受付にお問い合わせください。また、ANMECホームページにセミナー案内も掲載しておりますので、ご利用ください。



高電圧放射線治療装置 (LINAC)

ANMECセミナー開催報告

ANMECセミナーは、臨床に必要な基礎から新知見まで網羅した多くの情報の発信源です。ご興味をお持ちの先生方は、どうぞご参加ください。

平成22年度 ANMECセミナー開催 (第170回～第175回)

第170回 (H22.10.18開催)

教育講演；「60点の神経学的検査」

伊藤大介先生 (総合臨床獣医学研究室)

第171回 (H22.11.15開催)

教育講演；「宮城県における口蹄疫対策の業務を体験して」

大滝忠利先生 (獣医臨床繁殖学研究室)

第172回 (H22.12.13開催)

教育講演；「Canine Infectious Respiratory Disease Complex (ケンネル・コフ)」

山谷吉樹先生 (総合臨床獣医学研究室)

第173回 (H23.1.17開催)

教育講演；「獣医眼科診療の現状と課題」

滝山直昭先生 (獣医内科学研究室)

第174回 (H23.2.14開催)

教育講演；「がっちり腫瘍シリーズ；その四
「猫のSTSについて考える」

猫のSTSの診断

佐野忠士先生 (総合臨床獣医学研究室)

猫のSTSの外科

手島健次先生 (獣医外科学研究室)

猫のSTSの放射線治療

高橋朋子先生 (獣医放射線学研究室)

第175回 (中止)

平成23年度 ANMECセミナー開催 (第176回～第181回)

第176回 (H23.5.16開催)

教育講演；「動物医療におけるインフォームドコンセントとコミュニケーション」

鷲巢月美先生

(日本獣医生命科学大学 獣医臨床病理学研究室)

第177回 (H23.6.6開催)

教育講演；「がん性悪液質の機序と管理について」

Dr. Kathryn E. Michel

(ペンシルバニア大学 獣医校 臨床研究部門
栄養学 准教授)

第178回 (H23.6.20開催)

教育講演；「神経再生獣医療に向けて挑戦中！」

伊藤大介先生 (総合臨床獣医学研究室)

第179回 (H23.7.4開催)

教育講演；アドバンスレクチャー

「末梢血と骨髄の塗抹標本における観察テクニック」

末梢血塗抹標本の観察法とその解釈

丸山治彦先生 (獣医臨床病理学研究室)

骨髄吸引生検塗抹標本の観察法とその解釈

巨 敏広先生 (総合臨床獣医学研究室)

第180回 (H23.7.11開催)

教育講演；「未来に向けた産業動物医の姿」

大滝忠利先生 (獣医臨床繁殖学研究室)

第181回 (H23.9.12開催)

教育講演；「犬と猫の糖尿病の診断・治療」

松木直章 (東京大学 獣医病理学教室)

獣医学科の近況

【獣医師国家試験】

第62回獣医師国家試験が平成23年2月22日、23日にTOC有明4階EASTホールWESTホールにて行われました。日本大学獣医学科から141名が受験し、124名が合格しました。合格率は87.9% (全国平均90.8%) でした。

【表彰、受賞】

平成22年度の卒業生のうち優等賞が小林哲也さん、学部長賞が安藤鈴子さん、佐藤慶太さん、日本獣医師会会長賞が加古裕子さん、角笛会賞が江口沙穂さん、畠山理沙さんにそれぞれ授与されました。

【博士 (獣医学) の学位取得者】

課程博士：越後谷祐介氏、大友澄枝氏、小沼 守氏、加藤雅子氏、戸田秀明氏、平野慎二氏、松波登記臣氏、村上裕信氏、望月信之氏。

【退職】

田中茂男教授 (獣医外科学) が退職されました。加藤亜加根副手 (学科事務) が退職されました。

【人事・昇格】

伊藤大介助手 (総合臨床獣医学)、手島健次助手 (獣医外科学) が助教として昇進されました。

【新任】

五味浩司准教授 (獣医解剖学)、小熊圭祐助手 (獣医伝染病学)、佐藤 豪助手 (獣医微生物学)、齋藤光芳助手 (獣医薬理学)、入江彩香助手 (学科事務室) が着任されました。

■新任の先生の自己紹介



(獣医解剖学)
五味浩司准教授

本年4月1日に獣医解剖学研究室の准教授として着任いたしました。昭和62年に本学農獣医学部獣医学科を卒業し、東京大学院農学系研究科修士および博士課程修了後、農林水産省家畜衛生試験場研究員(獣医職)として職業人研究者としてのスタートをきりました。その後、京都大学ウイルス研究所研究員、南カリフォルニア大学神経科学プログラム博士研究員、新潟大学脳研究所助手、理化学研究所脳科学総合研究センター研究員および群馬大学生体調節研究所准教授などを経て、母校である本学に参りました。私の研究領域は神経科学と内分泌細胞学です。研究手法としては、遺伝子改変マウスを用いた遺伝学に基盤を置いた、より学際的なアプローチで行って来ています。獣医学科が藤沢の地に移転して間もない時期に学生時代を過ごしましたが、卒業後25年振りに見た湘南キャンパスは、その広大さと美しさ、そして充実した様々な施設に大変驚かされております。このような恵まれた環境の中、これまでの教育と研究の経験を活かし、担当科目である獣医解剖学、獣医組織・発生学等の講義と実習を通して、学生さんに獣医学の面白さと重要さを伝えることができれば、という気持ちでおります。不慣れで至らぬ点はあるかとは存じますが、先輩諸先生方にはご指導、ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。



(獣医伝染病学)
小熊圭祐助手

本年度4月から獣医伝染病学研究室に助手として着任いたしました小熊圭祐です。2001年3月に本学農獣医学部獣医学科を卒業後、日本大学大学院に進学しました。学部4年次から大学院修了までは獣医臨床病理学研究室に所属し、イヌ好中球のアポトーシスに関する研究を行なっていました。また、私はがんの研究にも強い興味を持っていたため、2006年からは金沢大学がん研究所にて5年間、ヒト胃がんの発生機序に関する研究を行いました。実験テーマはWnt^{シグナル}シグナル活性化が関与する胃がん発生における炎症反応の役割であり、胃がん細胞において遺伝子変異によって活性化したWntシグナル強度が、炎症性サイトカインであるTNF- α によってさらに増幅されることを明らかにしました。ヒト胃がんの発生にはHelicobacter pylori (H.pylori) 感染による慢性胃炎が関与しており、本実験結果はH.pylori感染による胃がん発生機序の一端の解明につながると考えています。現在の獣医伝染病学研究室では各種の動物ウイルス感染症が研究課題となっており、これまでとは研究分野が異なるようにも感じますが、一生懸命取り組んでまいります。また、研究以外の教員としての業務についても甚だ未熟であり、獣医学科および角笛会の先生方にご指導をいただきたく存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



(獣医微生物学)
佐藤 豪助手

初めまして。本年4月1日より獣医微生物学研究室に助手として着任いたしました佐藤 豪と申します。初見の方からはよく、名前を「つよし」と読むの?と尋ねられますが、そのまま「ごう」と読みます。

私は日本大学大学院獣医学研究科獣医学専攻博士課程を修了後、日本大学獣医衛生学研究室にポストドクターとして1年、国立感染症研究所獣医科学部第二室に協力研究員として3年間在籍いたしました。またその間に、3度ブラジルへと渡り、サンパウロ州立大学獣医畜産学部疾病予防獣医学研究室において、それぞれ数カ月間研究を行いました。

院生時代は主に狂犬病ウイルス野外株の分子疫学に携わりましたが、院終了後以降は狂犬病ウイルスの種間移行のメカニズム解明に取り組んでまいりました。当研究室に着任して半年が過ぎようとしておりますが、扱えるサンプル数が(ウイルスに限らず)飛躍的に増え、覚えなければならない多くの知識や技術と取り組む一方で、ウイルス学研究における自分の視点や切り口を大きく広げられることに期待もしています。さらに、教育面においては、自分が「面白い」と思うことを、学生の皆さんに素直に伝えていきたいと考えています。前途は課題山積ですが、皆様のご指導ご鞭撻を宜しくよろしくお願い申し上げます。



(獣医薬理学)
齋藤光芳助手

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成23年4月より、日本大学生物資源科学部・獣医学科・獣医薬理学研究室内の任を拝命致しました齋藤光芳と申します。平成19年に本学獣医学科を卒業致しました。在学中より、獣医薬理学研究室に於いて、浅野隆司教授御指導のもと細胞間接着分子が癌細胞に及ぼす影響に関する研究に従事しました。その後、千葉大学大学院医学薬学府腫瘍病理学教室に所属して大学院生活を送りました。大学院では、主に腫瘍細胞周囲のマトリックス成分(ヒアルロン酸)が腫瘍細胞の悪性化や上皮-間葉転換(Epithelial-mesenchymal transition:EMT)に及ぼす影響に関する研究および、癌細胞の運動能制御のメカニズムに関する研究をおこない、平成23年3月に博士(医学)を取得、

千葉大学大学院医学薬学府修了を持ちまして、本学に着任致しました。

浅学の身ではございますが、新しい環境のもと研究および学生教育に一層精励し、微力ながら獣医学および日本大学の発展に貢献できるよう努力致します所存でございます。つきましては、今後とも何とぞ倍日の御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

まずは略儀ながら書中をもちまして御挨拶、自己紹介とさせていただきます。



(学科事務室)
入江彩香助手

平成23年4月より実習助手として獣医学科でお世話になっております、入江彩香と申します。

私は、食べることが好きで、また、人と一緒に食事をする事でコミュニケーションを深めることができるという食の奥深さに関心があったことから、生物資源科学部食品科学工学科に所属し、3月まで講義だけではなく実験や実習を通して、食の機能性や安全性に関する知識を学んでまいりました。

4年次からは、生体において最大の免疫系である腸管免疫系を中心に、食品成分が体内にどのように働くかを解析する食品生命機能学研究室に入室し、「腸内細菌の免疫調節作用」というテーマでアレルギー性炎症とIgA抗体産生に着目して卒業研究を行ってまいりました。その中で、研究を円滑に進めるように先の手順を考えて自分で考えて行動することを学び、共に1年間研究を行った友人と丁寧にご指導して頂いた先輩方や先生方の温かさや存在の大きさを改めて実感いたしました。

この実習助手という仕事に着任した現在は、至らない点ばかりで皆様にご迷惑をおかけしておりますが、先輩方や先生方に優しく支えて頂き、本当に有り難く感じております。

何とか仕事をこなす日々であります。少しでも皆様の力になれますよう努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくようお願い申し上げます。

■平成23年度獣医学科入試状況

選抜方法	募集人員	受験者数	合格者数	競争率
本校試験 (第1期)	35名	1,192 (493)	94 (44)	12.7
本校試験 (第2期)	15名	591 (251)	39 (18)	15.2
センター試験利用	10名	533 (229)	25 (12)	21.5
一般推薦 (公募制)	学部全体で70名	46 (25)	16 (12)	2.9
一般推薦 (公募制・関連産業後継者)	学部全体で22名	18 (10)	14 (9)	1.3
校友子女推薦 (公募制)	学部全体で23名	14 (9)	11 (7)	1.3

()内は女子

■学年担任 (平成23年度)

- 1年次：遠矢幸伸教授 (獣医微生物学)、松本 淳専任講師 (医動物学)、西村知良専任講師 (一般教養)
- 2年次：中山智宏教授 (獣医放射線学)、加納 壘准教授 (獣医臨床病理学)
- 3年次：上地正実教授 (獣医内科学)、坂井 学専任講師 (獣医内科学)
- 4年次：鎌田 寛教授 (獣医臨床病理学)、枝村一弥専任講師 (獣医外科学)
- 5年次：中西照幸教授 (魚病学)、浅野和之准教授 (獣医外科学)
- 6年次：丸山総一教授 (獣医公衆衛生学)、佐藤雪太准教授 (獣医実験動物学)



訃 報

一周忌に寄せて - 日比野次郎先生を偲ぶ -

元角笛会事務局長 鎌田 寛 (昭和53年卒)



いつも角笛会の徽章と共に

先生は、第一次大戦下の大正5 (1916) 年岐阜県土岐市に三男として呱呱の声をあげられ、次郎と命名を受けた。中学を一人名古屋に過ごされ、昭和14年3月東京高等獣医学校を経て、同年獣医師免許を取得された。免許番号は七千番台。既に四万台を越えた現在と比べれば、隔世の感を否めない。

地方公務員奉職後、第二次大戦に獣医将校として大陸へ挺身された。獣医師志望の動機を伺った事が幾度がある。決まって先生は仰らず、代わりに、忠実だった馬の話必ずなされた。僭越に忖度すれば、圧倒的飢餓の中の撤退行が、戦時下学生としての悼みと分かち難く沈潜していたのかもしれない。健啖であられた。しかし、馬肉はあまり召し上がら

なかった。ふと問えば、口に合わぬと笑って応じられた。

昭和21年ソ連抑留より復員、一時関東近県で臨床をお勤めになられた後「これからは小動物だと感じ」、「成算は無かったが、えいっやってやるうてな無鉄砲な気分」で小動物臨床に転じられた。「やるなら東京が良い、地方じゃ小動物臨床の余地なんて未だ無い御時世だった」ので、昭和29 (1954) 年以後豊島区、次いで昭和36年に「畑ばかりのせいか東京にしては地代の安かった」ので練馬区へ居を定められたという。

醇乎とした御人柄も与り、開業生活は繁忙であった。「家内の御陰で何とかやれた」。平成19年3月、結婚53年目に奥様を亡くされた。次第に病状の思わしくなくなっていく時期、角笛会務を終えると「早く戻りたい」など帰路を急がれる御姿が浮かぶ。全て終わった後、「元氣だ、心配無い。充分話し終えていたから」とむしろこちらを氣遣われた。

昭和40年代中盤から50年代中盤に掛け東京都獣医師会理事等公務への要請が増えた。精力的に熟される一方、昭和58 (1983) 年4月に農獣医学部校友会理事および角笛会副会長に任せられ、平成3 (1991) 年4月からは平成16 (2004) 年3月迄角笛会会長に就かれた。

日比野会長の時代に、角笛会の近代化が果たされた。未だ紙の勝っていた頃で、会務は滞り無く行われてはいたが、将来を慮っての電子化の上申を、先生は即時容認且つ会長権限での経費充当を直ちに認められた。炯眼は、終生衰えなかったと思う。会員情報、諸書式のデータ化が終わった。電子化立案と膨大な実務一切は、津曲茂久事務局長 (現臨床繁殖学教授) が孤高に行った。今に至る効率化の源は、此の一挙に負う。先生はまた、角笛会関連の旧資料収集に深く意を用いられた。例えば旧校歌など、譜面再生に拘られ、記憶する校友の居ると知られるや自ら赴かれ、録音歌唱を得て専門家に採譜させ原譜再現を図るといった風である。旧校章や角笛会の原会章の復刻、ファイル化にも同様な熱心さで取組まれた。懐古への滑落とは程遠い。図らずも校友第一世代の掉尾に立ち先生は、過去の畏敬を常に責務とされた。平成22 (2010) 年11月10日逝去された。

さて、人にもし行き着く場所の有るならば、先生は今そこに居られるのだろうし、平生語られた如くなら、宇宙に還られた。想えば、私は不甲斐無い補佐役だった。最後にお会いした時、莞爾と「何れ会おう」。「はい」とお答えしてそのままとなった。だから私は先生と、いつかまたお会いするつもりでいる。



収集資料の一部 (「牧歌」 譜面、校歌詞、校章)

トピックス

菅原博文氏 震災を乗り越え動物診療・陸前高田

平成23年5月17日岩手日報に角笛会OBである菅原博文先生 (昭和55年卒) の記事が掲載されました。3月11日東日本大震災の津波により動物病院、自宅、両親を失いながらも、5月9日に獣医療を再開しました。友人から借りた軽乗用車に診療道具を載せ、避難所から往診に向かうという不自由な状況下で、地域社会の復興に貢献しております。甚大な被害を受けた陸前高田市で、多くの飼い主と動物の拠所として現在も活躍中です。



関東・東京合同地区獣医師大会・三学会にて校友会ブースを開設



平成23年9月11日(日)、日本大学生物資源科学部において平成23年度関東・東京合同地区獣医師大会・三学会が開催され、その学会の会場内に角笛会の校友会ブースを開設しました。学会の運営はもちろん、校友会ブースの開設にも角笛会神奈川県支部の先生方が多大な尽力をされました。当日参加される校友の懇談の場として喫茶室を設けたところ、多くの先生方が立ち寄り親睦を深めておりました。学会は多くの校友が集まる大変貴重な機会です。角笛会本部としては学会時における校友会ブースの開設に今後も支援していきたいと考えております。

第10回日本大学医療系同窓・校友学術講演会の開催

事務局長 渋谷 久(昭和62年卒)

平成23年10月15日(土)市ヶ谷の日本大学会館大講堂で第10回日本大学医療系同窓・校友学術講演会が角笛会の当番幹事のもと、開催されました。第10回の節目になる今講演会では医療系における最近の話題に関して、医学部、歯学部、松戸歯学部、薬学部、生物資源科学部獣医学科から各領域でご活躍の先生方にご講演をいただき、最新の知見を交換する場になりました。角笛会からは東京角笛会の羽原弦史氏が「日本でも怖い狂犬病」と題して講演されました。また医学部の講演「東日本大震災における仙台市医師会の対応」では震災の様子が垣間見え、非常に感銘を受ける内容でした。懇親会は校友同窓の拠点である桜門会館で行われ、他学部の校友と親交を深めることができました。



開会の辞

中川秀樹(当番学部・生物資源科学部獣医学科校友会・角笛会会長)

来賓挨拶

河野英一(日本大学生物資源科学部学部長)

第1講演 日本大学薬学部校友会

演者：小野真一(日本大学薬学部・教授)

座長：日高慎二(日本大学薬学部・教授)

細胞内銅イオン制御による神経難病、筋萎縮性側索硬化症(ALS)治療の試み
- その理論的背景と展望 -

第2講演 日本大学歯学部同窓会

演者：中島一郎(日本大学歯学部医療人間科学・教授)

座長：安藤 進(日本大学歯学部保存修復学講座・准教授)

発展途上国の地域ニーズに応じた口腔保健システムの構築のための教育支援

第3講演 日本大学医学部同窓会

演者：永井幸夫(仙台市医師会長・日本大学医学部同窓会宮城県支部長)

座長：岡野匡雄(日本大学医学部同窓会長)

東日本大震災における仙台市医師会の対応

第4講演 日本大学松戸歯学部同窓会

演者：和田守康(日本大学松戸歯学部再生歯科治療学・教授)

座長：村松 守(日本大学松戸歯学部同窓会・学術担当副会長)

歯科領域における再生医療をめざして

- 歯の銀行、組織の再生、審美に配慮した医療 -

第5講演 日本大学生物資源科学部獣医学科校友会(角笛会)

演者：羽原弦史(東京獣医科医院院長・東京都獣医師会足立支部副支部長)

座長：伊藤琢也(日本大学生物資源科学部獣医衛生学研究室・准教授)

日本でも怖い狂犬病

閉会の辞

渡邊和子(次回当番学部・薬学部校友会・副会長)

懇親会(日本大学 桜門会館)

司会・進行：渋谷 久(角笛会事務局長)



角笛会関連記事(校友だより)

愛信桜会

倉林 恵太郎(昭和36年卒・東京)

「愛信桜会」(あいしんさくらかい)は、獣医学科昭和36年卒業のクラス会の名称です。クラス担任が家畜解剖学の川田信平先生であったことから、信平先生を愛する、日本大学の花である桜の会という意味で、在

学中に命名しました。

従来からクラス会を各地でクラスメイトが担当して開催してきました。

最近では、平成13年熊本県、平成14年千葉県、平成15年茨城県、平成16年青森県、平成17年沖縄県、平成18年佐賀県、平成19年島根県、平成20年東京、平成21年山形、平成22年長崎で開催いたしました。2泊3日

の行程で開催し旧交を温めています。毎回、開催を担当するクラスメイトは、その土地のローカルカラーを生かして観光見学する場所、食べ物などの企画に腐心されています。

今年の平成22年は、長崎県の野口弥一会員が主体になって、佐賀県のメンバーが協力して、10月17日(日)・18日(月)・19日(火)で会員20名、同伴夫人6名の参加がありました。クラスメイトは当然のことですが、夫人同士の会話にも花が咲き、親しみが増しているようです。

また研究会資料として、宮崎県の畜産の状況 - 口蹄疫の発生状況、第9回日本大学医療系同窓・校友学術講演会、日本大学新聞、顔字アラカルト - 比例配分と遺産分割などを配布しました。

第1日は、ハウステンボスの日航ホテル泊、第2日は大型貸切バスにて諫早魚荘で昼食、原爆資料館、長崎文化博物館、グラバー園など観光しホテル清風泊、第3日は出島、そのほか自由行動のあと、昼食は四海楼で豪華であった。

(平成22年10月20日記)

角笛会関連記事(支部だより)

■新潟県支部だより

平成23年度角笛会新潟県支部総会にて

平成23年7月10日(日)に新潟市のシルバーホテルにて、角笛会新潟県支部総会、講演会、研究発表および懇親会が開催されました。例年より若干少なく21名の参加となりました。隔年で大学より先生をお招きしており、今回はお忙しい中、渋谷先生にお越し頂きました。通常総会を終了の後に、渋谷先生より、「大学の近況と角笛会」と言う演題で講演をしていただきました。続いて会員の職種に関する研修発表を2題行い、終了後に渋谷先生を交えて懇親会を行いました。懇親会では老若男女の境なく、同窓生として和気藹々で楽しく語り合いました。日大獣医学科は伝統があるため、とても興味深い話が諸先輩方から聞くことが出来ます。楽しい時間はすぐ過ぎ去り、また来年の再会を願って閉会となりました。新潟県支部も他の支部同様に若い会員の参加が少なく、出席者の顔ぶれが毎年一緒なのが、少々残念です。私個人が卒後19年経過しているのですが、若い方から数えて4人目でした。来年はもう少し若い会員の方に参加してもらえようと思っています。



文責：新潟県支部事務局 新野 猛 (平成4年卒)

学会関連記事

第50回日本大学獣医学会開催案内

日 時：平成24年7月

場 所：日本大学生物資源科学部

問 合 せ：事務局

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866

日本大学生物資源科学部

総合臨床獣医学研究室 (山谷 吉樹)

TEL.0466-84-3900 (病院受付)

E-mail: yamaya@brs.nihon-u.ac.jp

角笛会のホームページは随時、更新されております。角笛会関係の行事予定、支部同窓会からのお知らせ、また最新の角笛会報など多くの情報を発信しております。さらにホームページから新住所の登録もできます。是非、お立ち寄りください。



ホームページアドレス

http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~tsuno_hp/index.shtml

求人をお願い

女子学生の増加に伴い、小動物臨床の勤務獣医師を希望する者が増えております。会員からの求人申し込みは学生就職指導課ならびに6年生担任(丸山総一教授、佐藤雪太准教授)までご連絡下さい。

編集後記

角笛会報にご意見、ご希望等がございましたら獣医外科学研究室の手島 (teshima.kenji@nihon-u.ac.jp) あるいは角笛会事務局 (tsuno-3@brs.nihon-u.ac.jp) までご連絡下さい。(平成23年11月 手島健次 平成15年卒)